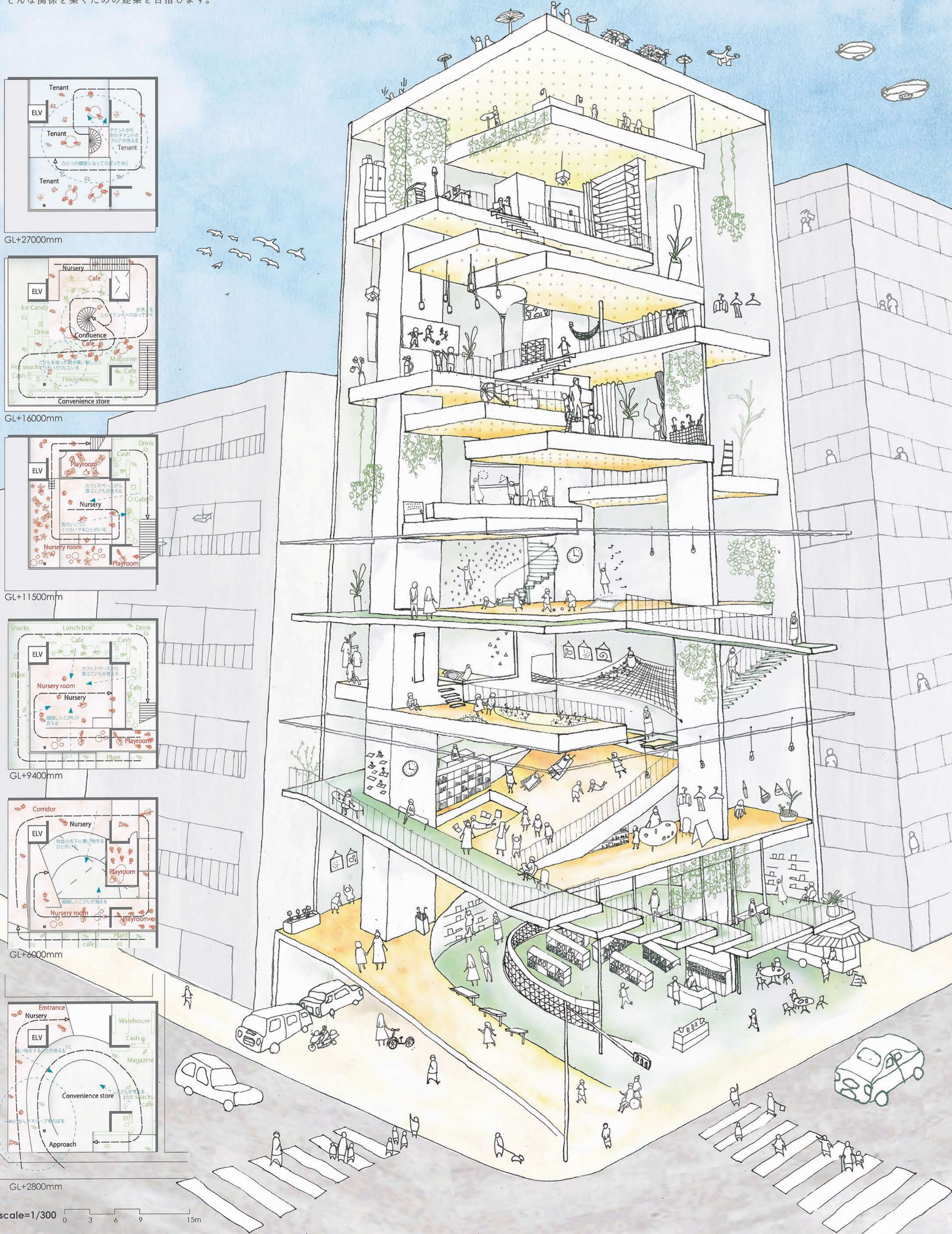


ふたまわり ふたむすび

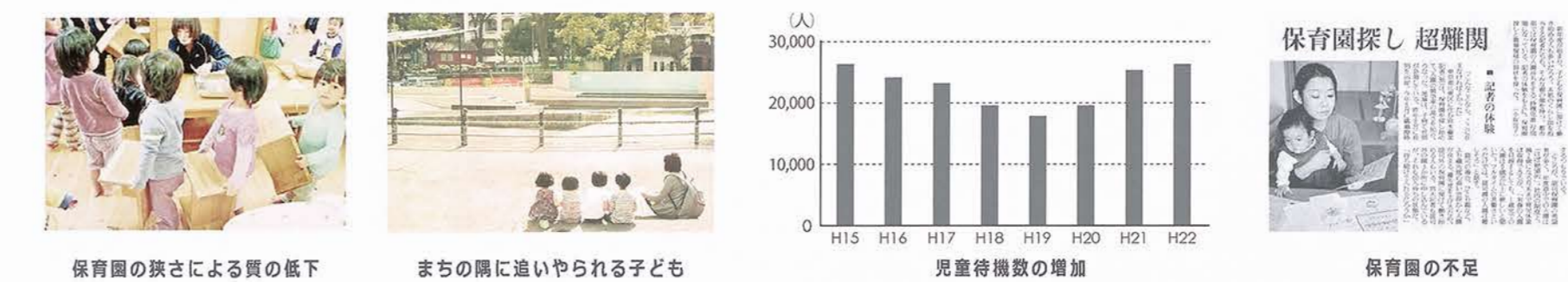
まちの顔となる都市型保育園

東京、副都心のあるまち。子どもの顔、子どもの様子を見ることはどのくらいあるのでしょうか。毎日の風景の中で、気がつけば子どもと顔見知りになっていき、子どもの成長をなんとなく見守っている。そんな関係を築くための建築を目指します。



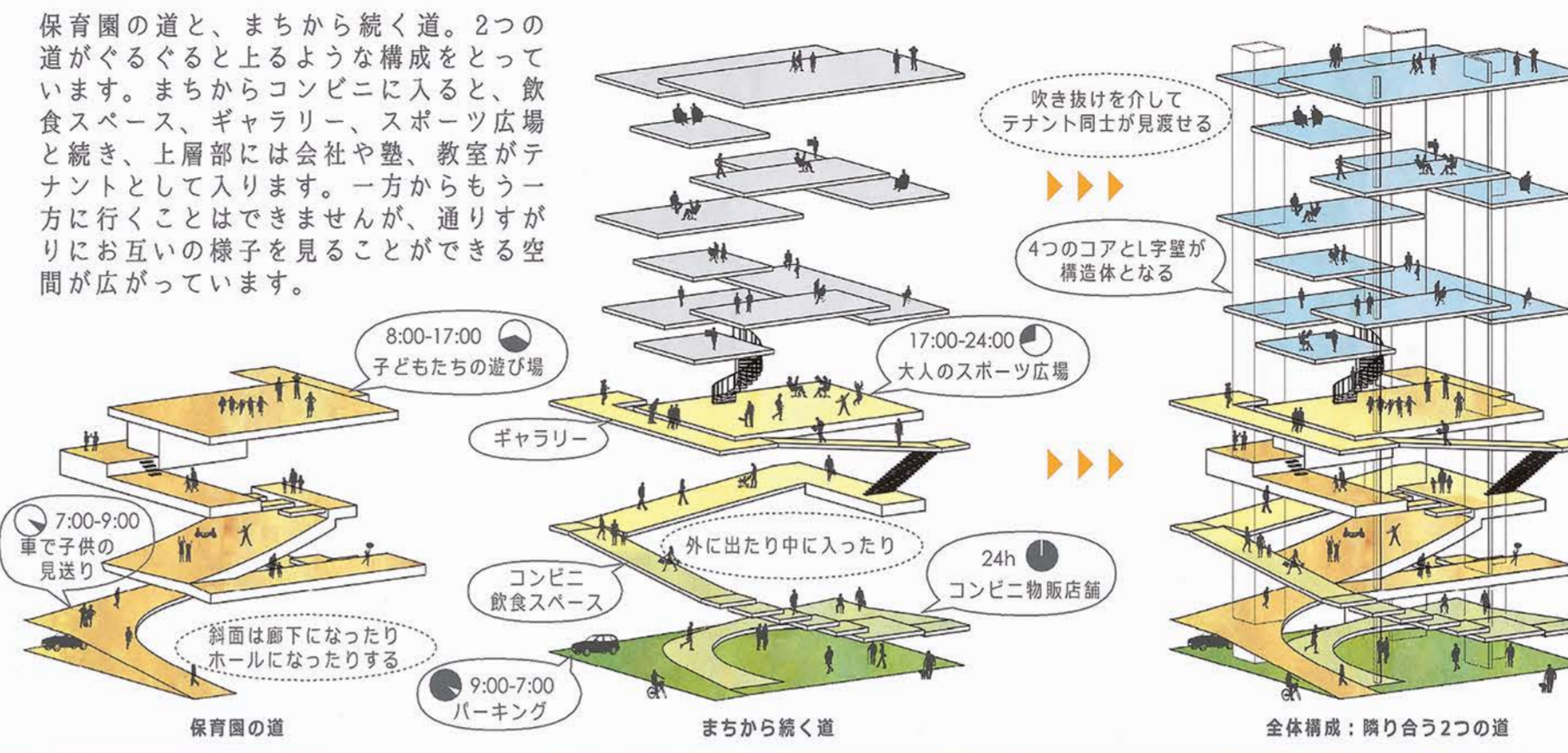
PLAN scale=1/300

0 人のこころを守る建築



さらに周辺住民による保育園建設反対運動も起こり、保育園は近いものとして隣に追いやられてしまっています。社会に歓迎されず、隔離された保育園と地域社会との関係を取り持つような場所は作れないのでしょうか。

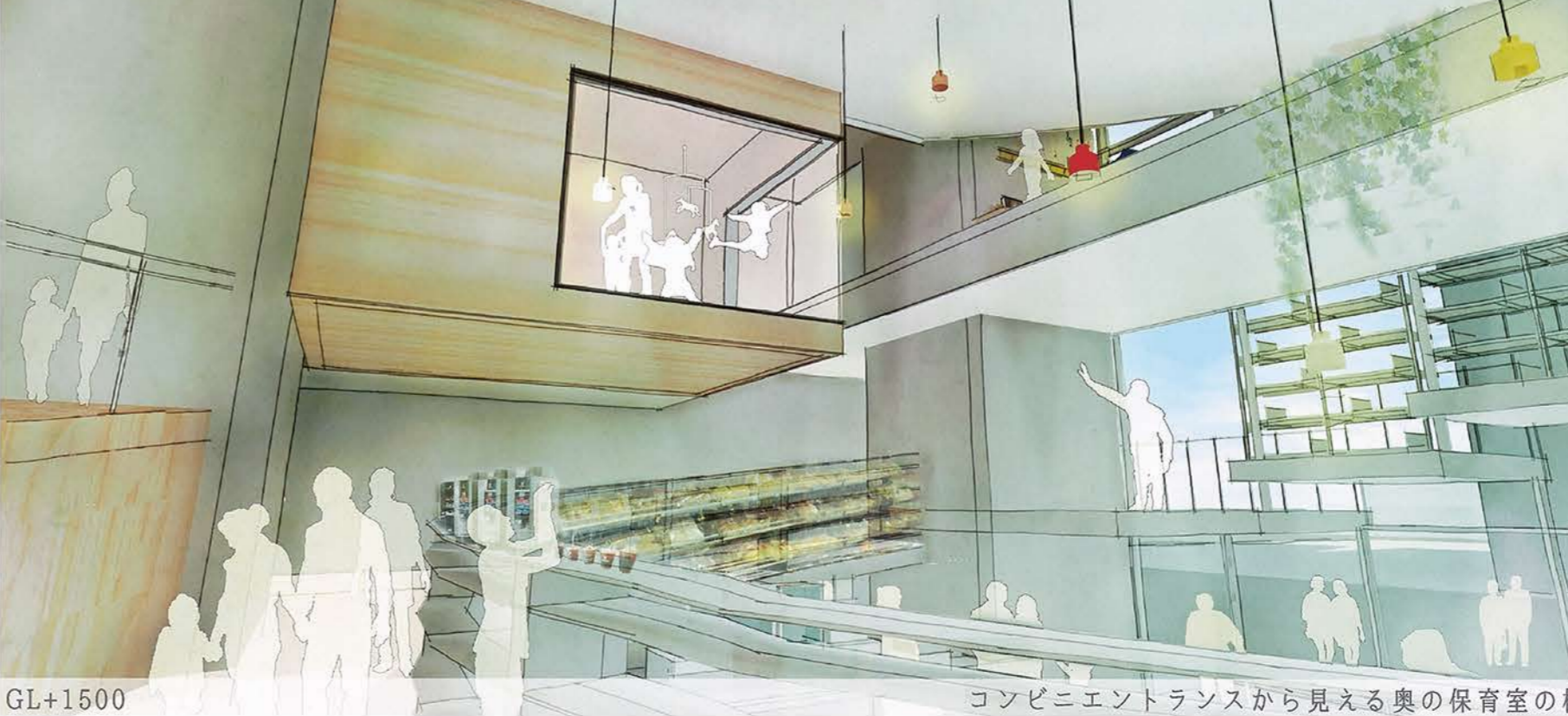
2 構成：コンビニを通してまちに開かれる保育園



保育園に迎えに来る親たちとこの場所を訪れる人々が交わる時間



買い物客が走り回る園児たちをガラス越しに見る



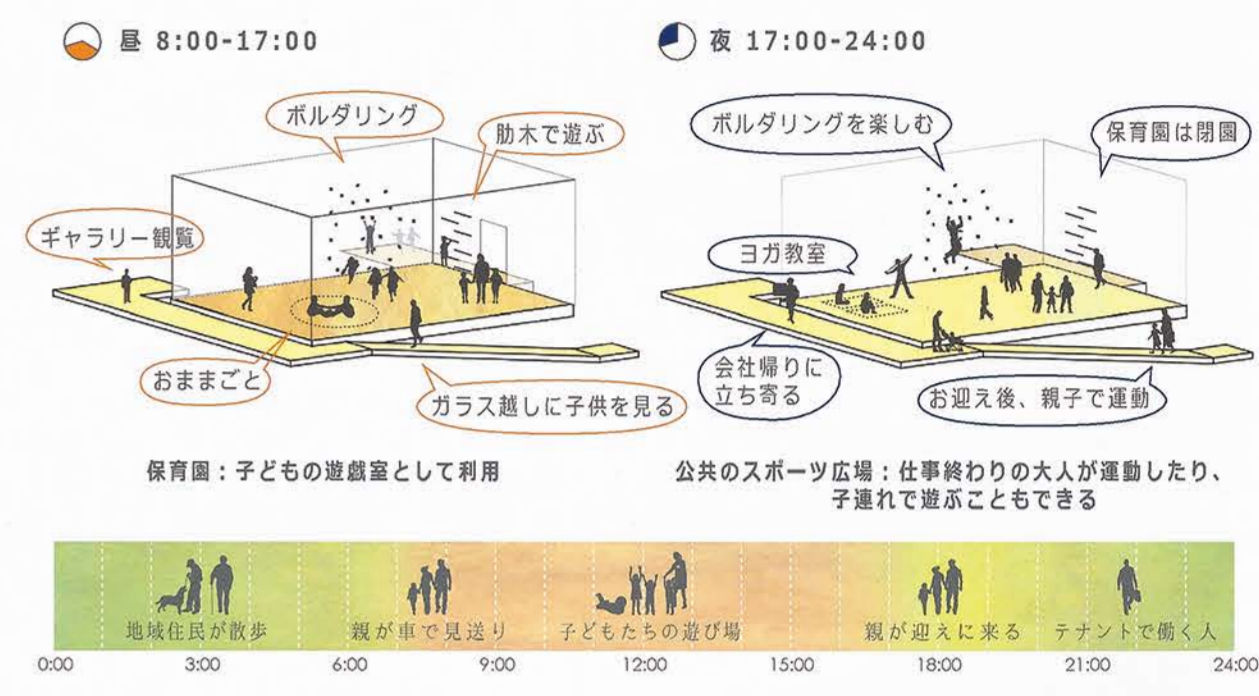
コンビニエントランスから見える奥の保育室の様子

1 計画：保育園×コンビニ



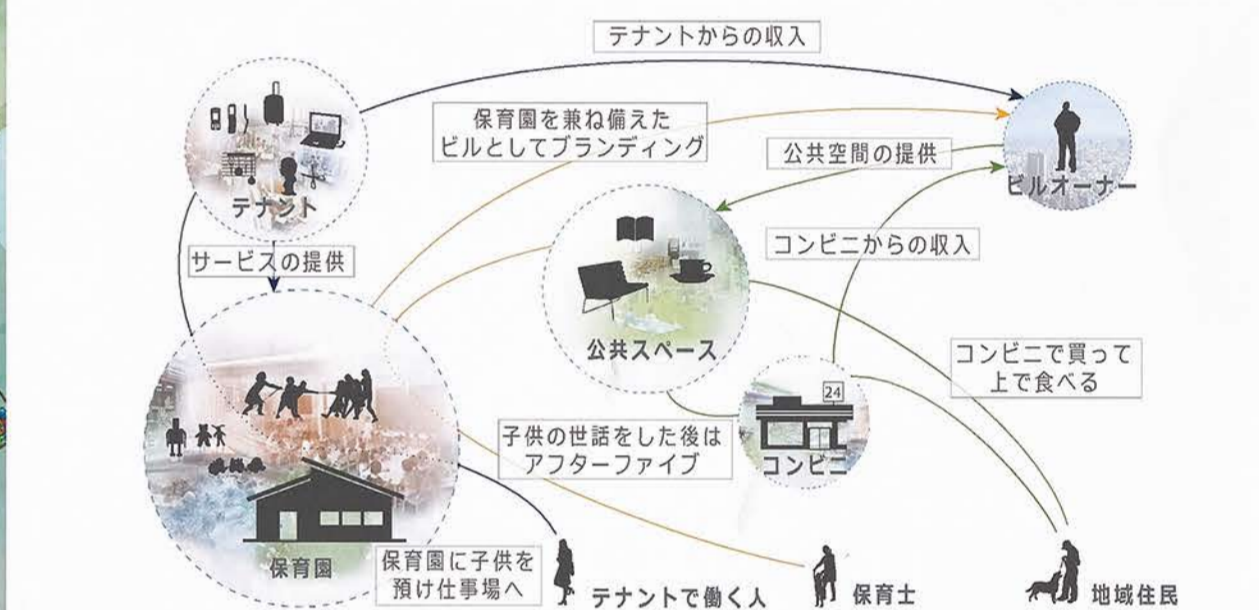
新築一戸建てが難しくなった保育園。最近では、テナントビル中層階の空室に入ることが増えてきています。このようなビルの1階に多く入っているコンビニは、多世代を集客する力を持っています。地域の生活インフラとも言えるコンビニに開いていくことは、地域に開くことにつながるのではないのでしょうか。

3 管理：昼と夜の利用者変化



2つの道はやがて同じフロアに辿り着きます。昼は保育園遊戯室として子どもがかけ回れる場所になり、夜は会社帰りの大人、地域に住む学生、お迎え後の親子が誰でも使えるスポーツ広場として開放されます。運動会の季節になると、親はもちろん、ビルや地域の人からの応援も響きます。

4 運営：多世代が訪れる仕組み



働くビルの中に子どもを預けられることは、テナントビルとしての付加価値向上に繋がります。また、コンビニに隣接する公共空間での滞在は、コンビニ、ひいてはビルの収益が見込めます。コンビニ、保育園、テナント同士のアクティビティのつながりが、多世代が訪れるための仕組みとなります。

5 保育園の灯りがまちを照らす



日中、園児を見守っていた保育園は、夜も彼らが住むまちを優しく照らします